俳諧七部集

阿羅野

五

共七

尾陽茅舎主人荷今子集巻

[illegible]

[illegible]

元禄二年弥生　芭蕉翁記

荒野集目録

巻之一　花　郭公　月　雪

巻之二　歳旦　初春　仲春　暮春

巻之三　初夏　仲夏　暮夏

巻之四　初秋　仲秋　暮秋

巻之五　初冬　仲冬　歳暮
巻之六　雑
巻之七　名所　旅　述懐　恋　無常
巻之八　釋教　神祇　祝
貞外

曠野集巻之一

花三十句

よしのにて

こ神もこゝろとゝまるたぬきの山　貞室
こゝまでもいきてこそ見る花のあるを　路通
花雲にあげゆくくれの林哉　信徳
さくらさくとのゝとこゝとはへてあくまむ　晨風
名仏一一花乃後ゝ見る　友五

山里の岩ものこゝろあるる花見うの那　尚自
何ものおもひなるる人乃長刀　去來
みなの乃雲すとに岩もゆ見へ　野水
まるの孔あの下戸うして来るいなら　亀洞
下ゝ孔下ゝちあるいまゆん花の夏　越人
も風乃山寺おくふる枝ゝ　一井
尺あゝしうふゝ成ゝ花の滝　俳嵩 俊似
兄分のいうはあゝ成ゝものゝ　嵐弾

ちるゝあゝ泊ゝ人ゝ　舟泉
冬汁ゝ数ゝ花乃浪　胡及
そつ花ゝ雑ゝ傘おいます　長虹
業舟乃花咲ゝ乃雨　俳嵩 卜枝
ゆるゝ見ゝなるゝ乃枝　岐阜 鴎歩
連ゝつゝ泊ゝ花ゝ　荷兮
疱瘡乃跡ゝ尺ゆるゝ　傘下
あゝ成ゝ風車賣花乃ゝ　薄芝

花よりさてうぐはくもいぶ　さつ
山あひの月ぬれ行夕日かな　心苗
行雁の空寒さをまとはの雲　越人
なであひやまつむらさめ　野水
獨来て交遊ひきり花ぢやま　冬松
花ぐもさそ〳〵蕣の白ふる　冬文
首ぬして罪ぢ〳〵蛍さそ　荷兮
ほのぐ〳〵ある人乃繪

月竜ちたく〳〵ほのむひとりぶ　芭蕉
あるあ乃ほ家よりつて
檀乃丈ぶ月ぬよかよりぬ　同

杜宇二十句

ほ〳〵をぶ月をくものく
水ぬ〳〵ぬ夜やるとれよ
雪篁電乃夏又月ぶつん郭公　季吟

月よりも青葉山ほとゝぎす　素堂

いそうきあるうゝ笑ふ梁蜀魄　釣雪

燭燭のひうとひらめくやほとゝぎす　越人

わひしらすの口もとするや時雨　洋雪　松下

跡や先爭ふ鳴く郭公　皇五

ほとゝぎすとなのうゝきうむ野の原　柳風

ある人のもとにて各句ものせしとき

ほとゝぎす

やとゝぎす沢の水なる鳥の翅　嵐蘭

晴ちらす沢の水なる落梧　落梧

散る桜夏花咲ふうつゝや時鳥　一髪

三歩ゆくと跡乃行ゝや郭公　同

涼よて

やとゝぎす十日もはやき魚舟か　風泉

鐵ゝとや寝入らぬ先の沢ほとゝぎす　岐阜　杏雨

あふ月やとゝぎす郭公　傘下

くらがりやかゝる雨にさほ姫きぬ　同

馬とるよくつとあひきる郭公　鈍可

岩くあをしほもの月を
みちゝるとらはれた

あのかるさふく紀人ゆかくきた　大津　智月

うノつこのつしやうはゆきかさ付る　李桃

うたかゝ梨と雲のいつく波とさた　予山

月三十句

かるくも笹乃うへゆく月夜か　十二歳　梅舌

ゆく秋を月入る中の猪鼠　湍水

月ゆるみも江ゆうかちゝ雪か　一雪

雨の月とさとも鄙ゆ雲あと　越人

きうとさよお脇むく月夜か　昌碧

夜ワ梨の青ゆきさ乱し宵の紅　津嶋　市柳

わうゝふほそて御る月夜か　一髮

とこすてもひとりぬる野中哉　長虹

峠を夜抱く月の郷　任他

一つ屋やいろをかくるふのつき　龜洞

名月を負ふるさはなの巴をり　越人

見てやらしに十二もきもうつ　文鱗

名月やふりあてくせる舟　昌碧

あいきつやせてあてくるよ舟　傘下

見てもや載乃屋也　夫乃て　二水

見ぬものゆへ笑て人乃月見ぶ　野水

むつらし也月を見るなを尖鏡　荷今

いつの月もあらぬ志紙て衾也　同

名月や酒も杯毎そ山もろす　去來

あいきつやトもとのむつまき　胡及

名ついけつきあつもきもあ取林うる　釣雪

ゑ月をそ見てし楢もきひ〜宵の新　一髮

十三夜

新蛙とあ出て行る秋の月哉　枳風

朝日

暮いそぐ月乃氣色や泉乃泉　荷兮

二月

見る人もなき秋の月の夕ぐれ　仝

三月

何ゆゑ秋見るまゆ似す三ヶ月　芭蕉

四月

夕月夜あんとんぐりて志ぐれむ　卜枝

五月

何ゆゑ見さるまゆや青柳　伊豫　一泉

六月

銀川見習ふ月ぞ我ぞ　巴崎　鶴聲

七月

雁なきて秋ぞ月ぞ　岐阜　一髮

雪二十句

大津にて

雪の日や船路のく新乃ゑ　其角

ふるさゝゆのむ雪もるゝ所哉　芭蕉

竹乃雪ふるなく萩の風　麈交

かさなるや雪ふる山只乃山　京 加生

車道雪なきゝ乃あゝとの風　加賀 小春

ゝつ雪ふるてゝうゝ顔を洗ふ　越人

はつ雪に戸明地蔵乃庵の風　是幸

ものゝけの姿ゝ地も雪の一川ふ　松芳

ゝゝき巣に初張ゝ雪ふる隈　二水

雪降てゝ一ゝ食なもいる雀ゝ那　鬼仙

巣乃雪れとき如やゝ枝ゝゝん　岐阜 陳風

ゆさ乃はや川節ゝ雪とゝ　路鳥汀

初雪や村に雪ふる蘆や　傘下

雪ふる江の大舟ゝ乃風　芳川

雪乃名から鮭とる夢の覚め　冬文

雪ぞ降るさやらさやらや鷹ぞ鳴く　桂夕

ちらちらや淡雪かゝる強飯　荷兮

さつ雪や先ふる梶にて隣まで　路通

はつはつに雪のふるまり原　野水

舟かけていくらか残る海の雪　芳川

曠野集巻之二

歳旦

二日よりぬるのゝ色もしら花の春　芭蕉

釋

多郎人のまかりしかの春　古梵

つくつくもゝ九千年弦浦の縄　風鈴軒

松うゝと伊勢の家買人も雀　其角

うゝの音連歌あるゝすかしの音　文鱗

月雪ぞ出るもるもるもるの松　去来

かなくて木なくてなる梅か　一晶
元翁和尚と共に神さぶる山のうら　路通
元はさぶるすがしいとるすがら　加賀　一笑
園園の梅乃花うむにおひの郷　大垣　如行
妙心寺老梅　岐阜　落梧
ゆくすえうちのきくてゆき梅　亀洞
伊勢浦や沖の木引体世と名の玄　同
ふきの乃花つきくてえむ春の梅　昌碧

去年の春ちいさこのうしの草ゐ　元廣
小林子栗やひろむむおつのうと　舟泉
さ男子秋京をあらひもり　同
山紫ようくしる竈の郷　童五
松高しし引馬浦るこ年春こ　釣雪
月出乃初を琵琶乃木ぎりか　同
連てきてくよ浦せ千万歳京　一井
うくしる神のる屋か　胡及

えだにはるむこや新ぶぶ年の雨　長虹

と路絶て縄婚　なるく柳汁　嵐弾

さわ姫ふゐ面いのるく蕨　同

蕨菫や舟の通ぶうんなくも　湍水

佛ぶ神そ歩くぶ紀ぶの春　京と史

のくぶ宮やとくの見ぶいうなくん　扑什

ぶさぶたとたう　ぶひるすたぶ和　冬文

正月の煎乃ぶぶぶらや炭歩ぶり　傘下

ぶ紀ぶ寂しかくぶ雨ぶ新　冬松

あいくく松なぶ門ぶ和ぶぶや　柳風

大服ぶ去ぶ年のまぶ紀ぶ白ぶ　防川

学ぶ紀ぶ学ぶまの飛ぶ年和ぶと　大山昌勝

傘に歯果かぶぶぶぶ元ぶ方ぶ新　夕道

神するぶく松の煎ぶ変ぶる新の春　梅舌

歩ぶくくぶむ和ぶやうつる大くみ　野水

暖ぶ春ぶ和やたくふるぶぶ　同

きつまとなりて花なり賢愚　越人
初夏や濱の石橋乃ときさぶ　同
きりせきは海階のあの麦畠　荷兮
萬歳乃やとに戎隣のゆるさと　同
已のとしやむらの春はかなし　同
我八重に月のとしたるまつ毛　僧般齊
糸菊式ゐ春のもゆるあの蟲　貞室

初春

若草つむ跡を木戸剉細ル　越人
精出して搗とゝのゝあの菜ル　野水
七草を出ゝ花ゝ乃ゝ　津嶋　俊似
女おゝ寒ゝ乃ゝあのゝ菜ル　加賀　小春
側雪て被乃れ梅花儀菜乃　藤羅
吾ゝも殺して春を乃ゝ菜ル　岐阜　素秋
石物ゝつゝゝ乃ゝ梅れしゝ菜　玄察

奪ふて折るまゝ梅乃花　鶴歩

むさゝび色ものゝ乳まゝ母ゝきゝ　越人

数尺ゝ紙なとりよわらん梅乃色　落梧

梅折てあさ夢ゝ四ゝ羽ゝ巾ゝ肌　一髮

美ゝなゝ山ゝ乃すゝいゝ水ゝ　冬松

みのむゝとゝ紙ゝ梅乃さゝゝ　蕉盌

綱代民部の息さ逸く

梅乃朱ゝ赤ゝ　芭蕉

うゝひ次乃ゝ　長良　若風

ゝ梅ひ浴ふ片ゝ　支來

あきゝの中ゝ　伊賀　一桐

ゝ梅ゝ　洋嶌　一笑

うゝひ寒ゝ　同　市柳

ゝ梅ゝ　同　夢々

うゝひきに波ゝ　梅舌

ちゝゝ山ゝ乃盃ゝ　鄧水

[illegible]　金垂史

[illegible]人乃袖を[illegible]　文之

かゝ[illegible]やきとゝ[illegible]　一二寸　芭蕉

[illegible]　傘下

水仙乃[illegible]　路通

[illegible]枝　荷今

歯塵題

[illegible]　舟泉

梅木

つよ[illegible]　傘下

椿

[illegible]　荷今

同

藪[illegible]　卜枝

春雨

[illegible]　端水

同

[illegible]の雨[illegible]とも[illegible]てこと　嵐弾

白尾鷹

[illegible]や蛤と乃鳳つまを[illegible]白尾小　野水

蛛乃井ゑ[illegible]かく[illegible]下り　奇生

立匂ひつの草ゑんこ[illegible]明[illegible]小　土歳 亀助

すこ〳〵と[illegible]子摘きりはく〳〵　舟泉

すま〳〵と橋やつますや土の事　其角

すこ〳〵と[illegible]子のもとり土筆　蕉盛

土橋やちこくさへ[illegible]つく〳〵　塩車

川舟やすぬのへつむ土筆　冬文

はく〳〵し頭巾に[illegible]　青江

蘭亭乃主人池乃

[illegible]を[illegible]

池と[illegible]　俳名書写ふ柳張　素堂

風の吹市成佐やなさ　野水
行るも船　とるも船　柳　越人
さ〳〵柳岩ゝを廻りあり　一笑
尺ゝるとゝやゝめる　柳　小春
すゝ絶〳〵柳を風ゝとつむ　一笑
こゝとつきゝ笑をとゝもる　柳　昌碧
さゝ絶ゝも蟹のゆのまぬ　柳　杏雨
〳〵ゝゝゝ恒ゝゝゝる　柳　洗橋

蝸ゝの焼く牛のゝゝもく　柳　杏雨
吹風ゝ厚ゝゝゝす　柳　松芳
う厚蝸の地ほゝわのなゝゝ　柳　接遊
いゝこゝしき野鍛冶ゝゝ　柳　荷今
蝙幅ゝみゝ河ゝ月　乃柳　仝
主日　柳　ゝゝ面ゝ車　柳　素拙
〳〵ゝゝゝ後ゝゝ　柳　鳴歩
糸乃ゝゝゝ絶ゝ種ゝ　生林

仲春

麦の穂に芒末弱く風のうる嵐哉　不悔

菜弱ものや枝菜の上手あいく　長虹

なの花弱音なうつる日和哉　傘下

菜弱ものの蹴うち弱きなのめ哉　清洞

うとくとも人文で畑うつ蝶の風　去来

一万歳を仕舞ふくうてるむち男　昌碧

つくきまぐ〳〵わるくさくの風　越人

鷹狩の一句稚〳〵しけれども　笑艸

ときり〳〵を義二千さく咲よりり　除風

手のとくほとをれ〳〵桜哉　一橋

うし紙とは足〳〵紙奴の桜哉　冬松

おこ〳〵也山やく紙をむきみち　一髮

ちる風よちく〳〵雪雀哉　野水

あふのきに寝て〳〵むれ迄孔雀哉　除風

ちる色よつ〳〵をあうむる雑子う那　一雪

けうとを備縄解くやる雅ふる　塩車
手綱ひてこの戸あく原蛙の影　山崎宗鑑
明るくていとあひ笑ぬかたつむり　落梧
あのつまをなむつくばうよいる蛙　越人
つくすを色とも骨拾ふ花のかたつむり　去来
見入るさはゆく蛙の目　落梧
不図と見て後ふ原蛙の　洋嶋松下
ゆふやこの夜胴ふいる蛙の影　一井

さつ蛙を哭乃凡おひ多ひ小　抑風
梭桐の影ふにとゆうてゐる胡蝶小　梅餅
かやりの中をおる原さてふ風　炊玉
かゆ紙芝やうふ影ふうそ胡蝶　百歳
蓋まき

何ぞ乱るかつの沓ぞ土ふ蓋小　忠知
ふふと馬ふ乗ふ蓋草　荷兮
あうろくの土ふ原ふ蓋ふ影　野水

屋たちのもとは乃とすす同の草ゝ　舟泉

草刈て莖選おす立雲　こう那　鴉歩

り蝶れとゝ為もと殘さぬ　あとみゝ　燭遊

麦畑乃人ゝ深たるの場こう那　杜國

ちけ山や勝の月ゝすゝ所　大坂　戎之

ほろ〳〵と山吹ちるり淋乃音　芭蕉

松明ゝや乃吹うすし麦のい海　野水

山吹とてゝのまきゝ地ゝ　卜枝

一ゝとゝの也山吹のゝく中へゝ那　岐阜　樗雪

ゝ乃ほゝなてゝや乃ぬゝさゝ弱ゝくゝ　同　蓬雨

あゝゝゝも極ゝくゝもゝ燕りな　玄変

ちゝ度の巣ゝ土ぬ乃ゝ生す燕ゝ　俊似

いゝさゝゝゝとゝゝ地ゝゝの燕ゝ風　長之

燕乃巣ゝ視乃すゝゝゝ　こう那　長虹

黄昏ゝたてゝゝゝ沈ゝる燕　武　嵐弾

友減て鳴ゝゝゝ黄乃屋　且藁

角落てやさしく見ゆる小鹿哉　芭蕉

あら浪よ親よふ浦の塩干哉　越人

おやも子も同し飾すや桃の花　傘下

人ゑらむ舟と陸との塩干哉　三倫 支皇

山まゆりも咲かぬる躑躅かな　荷兮

朧夜やふかくてしほさき藤の花　兼正

篝火よ萩のちらけぬ鵜舟哉　亀洞

永き日や鐘突跡もくれかねし　卜枝

永き日や油しめ木のよはる音　野水

行春や跡をしたひて惜しかり　同

曠野集巻之三

初夏

うゑもかへや白髪もぬく程の雨　路通

更衣ゆふ日ひかりやたしなさん　傘下

うゑもうへ刀もさしてうゑもうへ　羅弾

肖柏老人乃もちたまひしあしの山とりよ
まことにこのまゝふむけよ文鱗　らく我々の
とて所々の名所越人ら拾ひさぐるを忠誠や
ひろひ乃ち文鱗よりつゞけるを

蚤よ蟣よ我もあるべしうゑもうゑ　荷今

山路にて

なつ来てもたゞひとつ葉の一葉かな　芭蕉

いちはつも桔こそあはれんきつゝき　一井

椋の木のはえて色つる若葉かな　越人

切らるとも力の若葉え神を桜かな　岐阜　不交

若葉してうらくまなかの木かな　同　藤蘿

山吹も風くその木くずの若葉かな　亀洞

むらくもの若葉にとまる故蝶かな　竹洞

ゆあみして若葉見よりゆふ風　鈍可

ものけ山やトリ子の澤卯木　夢々

上ケ出すにつゝ桂とて麦一穂　玄寮

枯色も麦ちての色入法隻の中　生林

麦かりて桑乃木さての色緑なり　作者不知

むきかりてにすの間く星の蓼の風　鈍可

志らぬ若子にてはるや蝶乃氣いろ　嵐蘭

鳥飛てあふ風さけしの一寺かな　落梧

り　敷て寒く寒くなるなり　岐阜　李桃

大粒の雨さこそぬれ　東巡

萩さひく見ぬ拾ひぬ萩のもの　吉次

依川の居さて

庵の中もみ　嵐雪

さひさ乃ぬ　野水

仲夏

雨ふる笹ふる蛍哉　櫻井　九浦

刈草の馬屋よりほのかなる哉　一髮

窓ふるる障子をのぼる蛍かな　不交

閑居ふるる人吟蛍の影　風留

乙鶴く起て秋の蛍の哉　青江

あ見ぬ蛍ふるる蛍の影　合帖

くさかりの油ふるる蛍かな　卜枝

ふる波て濡ふる油ふるるなる　鴎歩

そ乗て薄室咲ふ秋の哉

こゝらのかしのうくあやめたれ侍ぬ　秋芳

故のむかして梅乃一木も昌雲なり　小春

うやゝ史よ夏面せ侍くなるとなり　杏雨

あのゝ紙傘乃ゝるるよ唱歌うれ　二水

蚊乃痩て鎧みうへよさりもと　一笑

夏ものもこの法きるま延ち紙賛成　胡及

招引て藻のひもゝ昌ちさこの肌　児竹

足伸へゝ姫百合仲れゝすをれ水　牡橋

竹乃よ行燈さけてまちも来　長虹

笋乃時ゝ見ちるーうち竹　去来

関杉紙と豊くくでもあき水鶏水　野水

五月雨よ柳さハ侍ハ行う那　大伴一龍

この花を小粒ハなのぬ五月雨　尚白

ゝゝ雨を傘よまちあるさを雨乃水　亀洞

岐阜まくく

杉すゝうさしさゝ侍ハ猟ハ　貞室

杜なし所にて

物もしろしてやとくかりの猪舟哉　芭蕉

おなしく

猪のはらふ舞こそ哀也　荷兮

同

夏草は鉄も腐らん猪の舟　越人

芝ふの乃家もかよふ猪舟　大津　淳児

曲江は猪の人こそ哀なり　梅雄

野路の菓のうゝさりあるをかれを　路通

松笠の保をとるる夏野哉　卜枝

虹乃根をかゝる野中乃樗哉　鈍可

蘭の花や泥さゝ雨乃雨　同

樹ゝや蔦絡書人をとゝむらん　越人

冷しや灯のうゝ夏乃あと　藤羅

夏の蝿やうゝり火よ簾入る屋　且来

菴乃蔦とゝ

すひつさくとこたゝ夏の岸俵　其角

夕ゝやゝ秋きしのゝ鳥の羽　芭蕉

ゆふゝほのしろほもしを人乃ちゝ　野水

夕良き改乃宿屋のちゝ　偕雪

山路来て夕ゝやみ法のものゝ　市柳

丸きをちゝゆふほゝ似ちゝ　長虹

暮夏

柿も初くやうゝ蟬ちゝ夏　昌碧

雲北岸腦ゝけ沉なゝむなゝ　野水

夕ちゝ雨傘めゝ切樹の風　傘下

ゝゝさて板もやゝ水陽ゝ　玄旨法印

涼ゝさゝ白雨のゝ入日影　去來

簾ゝ涼ゝやゝ窓のちゝ　荷兮

ちゝ色ゝ砂あつゝ風ゝ　同

松もちすの人ゝ通ゝ夕涼ゝ　鳴海如風

苑石乃石影草ゝ下涼み　津嶋俊似

漕しさを櫓乃下ゆくふの音　仝

桃燈のとろゝゆゝしく漕舟　卜枝

すゝしさをわきて流るゝ川かゝ　未學

吹ちりてふれうへなく道ゝ那　岐阜　秀正

遣みゝはすさやきわるさゝ　松坂　晨風

笠を忘てみゝ〳〵蓮こそ咲り　古梵

河骨くゝのわれ行あの外ゝ　芙水

ちゝ〳〵とさゝつゝ松の古枝めゝ　長虹

すゝこさりて堀子ゝ沖の漁ゝ舟　俊似

連あゆゝ待きて弦ふゝ月ゝ　文瀾

引立て馬ゝのあゆゝ見ゝ風　潦月

かゝりゝを淺草ゝて行ゝ水　尚白

垂釣ゝ如ゝ山ゝ弦ふゝ月ゝ　一髮

出ゝ行ゝ幕を踏ゝ風ゝ　卜枝

麻の衣ゝ皆ゝ浦ゝ秋ゝ行ゝ路　岐阜　李晨

釣竿ゝ後ゝ付ゝ見ゝ　越人

綿乃なをなく蘭くゆくるの風　素堂

曠野集巻之四

初秋

ちくさなや麻刈あとの秋ぢ風　越人

梧乃葉ゆ少しの月煙の風　圓解

松嶋雲居のまるまる

一ゑふ蕎青くさきうり　仙化

うるひくのちくもや秋の夕くき　洋嶺　方生

男くさ花羽織なる星ぢを向ひ　杏雨

秋風やたゝきもうらく弦たゝん　去来
涼しさを座敷にとる鶴の那　昌長
畦道に蕎麦すゆるいなもの風　鷺汀
まつむしを通る踊りの音頭　一髮
さびしさ　す　絶　消　鳴　素秋
あれば雲を編妻を待たるゝ小　芭蕉
いなつまやさの山東ふもと西　其角
如まの絶てもなるうつゝや秋の山　舟泉

秋風や白き花さくうりの那　芭蕉
葉や垣の外はまつのたつ　文鱗
あさゝの外白さもとゝのもたぬ　荷兮

子を守るものゝ外の白さ
秋風をゝのゝくやるなくふもの　同
隣あれあさゝ畑行くうつしうり　鴎歩
あちらかやひゝくゝのゝく弦月　胡及
蕎麦ふるゝ蕎麦のいふやうや寄の音　嵐蹄

ひょろ〳〵と引ずるやうな花　芭蕉

棚作る色さびしき蒲萄かな　作者不知

草むら〳〵かゝぬもらのみかな　伏見　任口

もこそさぶしく思の燭とあくる扇かな　荷今

行人や蛍りそ流んしら〳〵月　胡及

宗祇法師のこと葉にそゝ

為ゆゑ〳〵色小まむいとゝ哀なる　素堂

さら〳〵引ぬ姿に成る寄る　後似

仲秋

かゝ紙屋又烏乃とまぬ夜ハ秋の姿　芭蕉

つく〳〵と絵ゝる秋の扇かな　加賀見　小春

谷川や蚤代衣そ〳〵秋の〳〵神　陣嶋　蓋音

石切乃青ゝ中〳〵秋の姿　傘下

斧ゝ衣や塙塙ゝ秋あ〳〵神　卜枝

庶の〳〵人の臭み衣夕〳〵　一変

田ゝ畑ゝ猶〳〵ものゝ哀ゝ　伊豫　一泉

山ぶかう庵をしめて矣ける　宣五

紅葉ちるをたうをへくるの間　其角

さゝ地人とゐのひてくるるあやめ　東順

最上ら中　くるるまふこゝろ立枝ぶ　林斧

とこやしのくゆるまふ蓮の露　越水

つの布ものとこやら秋のこゝろ　宗和

つのるる花こゝろ紅ら　加賀

秋もさ夜我なるとおこるなり　小枝

素堂へまゐりて

まゝすの實ゝ秋ぬきあるる蓮の　越人

一ぱ乃芦ゝ植庵　防川

松の木くゝ秋の蝶　舟泉

まつて寒ゝ池ぬ秋の月　胡及

ゝるまかゝら秋市のきぬるう那　暁瓢

関の茶ふ年よあひゝ

さそ花孫六や　其角

さいぬつらてふるさとを怡つま　芭蕉

いそかしや野布子の黄這星　加賀　一笑

暮秋

あらしの中の柿一つ勇乃白さかな　巴丈

きつゝ見れとちめそゝ口れ花ゝそ　昌碧

山路乃きく砂ちるひるそ　越人

一ちゝ作ぬ蔓ものさるのり　曉巒

荷ちの室ゝ孫れ古所黄ゝ外ゝ世
ゝし箱はゝゝる土器出ゝれ所ゝ

かゝはけ乃ゝ世ゝ蔓ものゝ　其角

見ゝつの酒ゝ人や駕賀帽ゝ　同

ゝふゝなりて菊作ゝ紅ゝ　二水

かなゝりて芋ゝ蔓の姿ゝ　伊豫　千周

佛しさ思ゝ櫃ゝ実ゝ見ゝ　濃州　芦夕

[illegible]ものこゝすちゆゑ梅もとき　加生

[illegible]穂やきゆく[illegible]ある神　路通

曠野集巻之五

初冬

あ[illegible]ちのもゆ[illegible]とこゆる時雨や　湖春

京[illegible]

[illegible]三井[illegible]　尚白

[illegible]他[illegible]ひおすこの夕　湍水

百句真行

[illegible]人のやどよ[illegible]　荷今

人を待つる月より
と教へ給へる　落梧
秋のものの下陰のうす赤き紙の色　炊玉
涼しさ宿りの色袋をとる赤き紙の下　傘下
とかくしよ二はの月の姿きちるさ　荷今
一髪つて柳の黎ふるく紙よりより　一髪
このもとに帰れ涼きを用ふ裏の小　同
枇杷の花人のわすれし木陰の風　同

菜乃もとにものつるてさ咲くる小　李晨
梨の花もとに紙を敷く野水　野水
蕎麦乃いつくらえる中間花　昌碧
麦ちさてて青蘿さ敷し居小　仝
乃とに也麥ちく法の衣久へ　一井
強きの紙中岩にみくあるる地小　落梧
石白乃破ており也つる花　胡及
青く立ちもく法を法を風小　文蹲

[illegible] 卜枝
[illegible] 野外 洞雪
[illegible] 一髮
[illegible] 松芳
[illegible] 杏雨
[illegible] 蕉窗

寒月

[illegible] 野水

あさ漬乃大根あらはる月夜哉　俊似

仲冬

[illegible] 勝吉
[illegible] 古治
[illegible] 林斧
[illegible] 杏雨
[illegible] 宗之

[illegible]の[illegible]乃[illegible]　松園

[illegible]棚乃葉[illegible]　勝吉

[illegible]池[illegible]　俊似

つきはてし川[illegible]　除凡

打[illegible]　夜舟

兼題雪舟

峠[illegible]雪舟[illegible]　嵐弾

ぬ川[illegible]雪舟[illegible]　荷今

[illegible]　長虹

馬[illegible]雪舟[illegible]　一井

雪舟引や休むも走て[illegible]　亀洞

つ[illegible]雪舟の[illegible]　含咕

青海や羽白黒鷗[illegible]　皇ノ忠知

舟[illegible]　亀洞

朝鮮[illegible]　村俊

井を掘[illegible]
水[illegible]

汗ばして谷を突こむ氷室哉　伊松

海亀鶴乃童埋もるる氷室哉　利重

炭竈乃穴埋もるる雪の下　亀洞

藤棚の花咲こむさむさ　塩車

火ばちして夜はさむき春　賀一笑

いつこにか底起せば水寒　亀洞

冬籠りそうんせもら　芭蕉

歳暮

餅つきやゆるも杉をすぼうし　李下

吾書てくる免地のあり年の暮　尚白

もろ花の後をすまして[illegible]ぬ　野水

もろ迎く榾つくゆる菜畑哉　亀洞

煤もろひ梅さけるる瓢哉　一髮

木曽の月こてこるくてけく

とて柿の実少川れてこるる

こ年の暮さびしかりけるや

もむとて

さしのゝ舟桁ゆ賀の川ゝと　荷今

門松をうゑてゝ拾一本行ひ　内習

田沼ゝ氣遊ふのゝをさゝ　亀伺